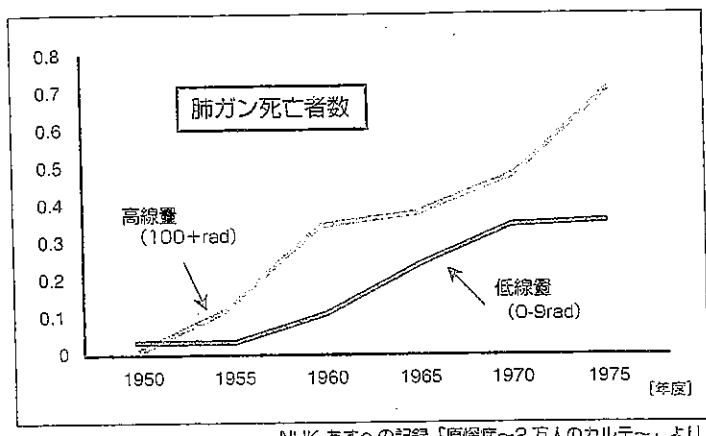


2

① 原爆症 (肺がん) 死の急年変化



NHK あすへの記録「原爆症〜2万人のカルテ〜」より
ABCC・放射線影響研究所のデータより作成

① 原爆が投下された直後の高熱、爆風が生命を奪ったあと、放射線による急性障害を起こした。その後長期にわたり残った大気中の放射線と内部被曝により、数年後血液のがん「白血病」が増加。その後白血物が見られなくなるのに反し、タイムラグをおいて胃がん・肺がん・肝がん・子宮がんなどの二〇種近くの固形がんが次々に人びとを襲った。さらにその後、心臓病も放射線の影響であると考えられるようになっていく。このように障害は被爆直後に表われず、長期にわたってじわじわと人体をむしばんでいく。この症例を「晩発性障害」といい、放射線が人体に与える影響の核心の一つとなっている。その概要は放射線影響研究所のホームページに示されている。

② 被爆者が受けた線量が多ければ多いほど、その

② 「科学ジャーナリストの警告」 (清澄出版) 編・著 林勝
① ~脱原発を止めるための~

223 特別レポート 放射線の人体への影響

3

② 低線被曝 5mSvでも

三〜七倍ほど高いとの米国科学アカデミーの報告(BEIR VII)がある点や事故時の「帰村基準」は年間二〇ミリシーベルトの科学的意味を住民は事前に収集・学習・納得しておくことも条件となる。因みに、チェルノブイリ事故では土壌汚染に加え、五ミリシーベルト以上は強制移住、一〜五ミリシーベルトは「移住の権利ゾーン」となり移住・居住に関係なく補償が認められる。

- 100mSv以下で発がん
1. スイスにおける自然放射線
蓄積線量が1mSv増加する
(Spycer SD)
 2. オーストラリアにおける
全がんについて4.5mSvで
 3. 英国における自然放射線
5mSvで約1.5倍
 4. 小児CT検査(22歳以下)
白血病: 約50mSvで3倍
 5. ドイツ原発周辺での5歳
5km以内では5km以遠の
10km以内では10km以遠

表1 発がん
② 「科学を信じる」 (JCP, 日本)
② ③

1

① レジュー

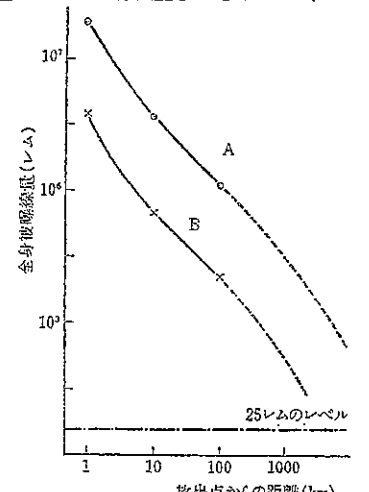
① 3連続メルトダウン。爆発事故を防げなかった
ジャーナリストの責任について

② 現在進行中の「原子安全神話」から
放射能安全神話について。
20mSv/年の危険性。その意味。
放射線従事者の年間平均値に相当
極の2倍。同じ健康5年間で5mSv/年に
切り下げた現状。

③ 原研は
再生可
世界
日本の

③ 再処理工場の最悪事故 < IRS-290リポート > 1976年 (西独・ケルン・原子炉安全研究所)

の人体影響
も有意差



放出点からの距離 (km)
 A: 高レベル廃液貯蔵冷却系の事故の場合、
 大気安定度F, 放出高0m, 風速1m/秒。
 B: 使用済燃料貯蔵プール冷却系の事故の場合、
 大気安定度D, 放出高20m, 風速1m/秒。
 再処理工場の規模: 濃縮ウラン1400トン/年。

III-44 再処理工場の重大事故時における
 住民の推定被曝線量

図5 再処理工場の重大事故時における
 住民の推定被曝線量(『原子力秘
 められた巨大技術』NHK取材班
 /日本放送出版協会)より。

●驚愕したデータがある。それは西独政府がケルン・原子炉安全研究所に再処理工場の重大事故評価を依頼し、七六年に報告を受けた『IRS-290リポート』である。**最悪の場合** 一〇〇キロ圏内でも住民は致死量の二〇〜二〇〇倍被曝、死者は最大三〇〇〇万人に達するといふものだ(図5)。これは広島原爆の二〇〇倍ほどの死者数に相当する。この点も筆者が核燃料サイクルを廃止すべきと考える理由の一つである。

● 日本国政府も通常、普通人で年間一ミリシーベルト以下と法令で定めている。JASTJの月例会などで元国会事故調の崎山比早子委員は表1のとおり一〇〇ミリシーベルト以下でも発がん有意差が見られたとの科学的な疫学調査を複数紹介された。中でも五ミリシーベルト程の微量放射線の被曝でも小児白血病などに有意差が見られたとの報告は注意すべきだ。また、子どもの放射線感受性は大人の

がんが有意に証明された疫学研究

放射線と小児がんリスク
 すると白血病、中枢神経腫瘍が4.9%増加
 SD, 他, Environ Health Perspect. Online Feb 23, 2015)
 る680,000人の小児CT検査
 1.2倍
 (Mathews JD 他, BMJ 346, 2013)

放射線と小児白血病罹患率
 (Kendall G.M. et al., Leukemia online, 6 July, 2012)

下)による白血病と脳腫瘍の発症
 脳腫瘍: 60mSv で3倍
 (Pearce MS 他, Lancet 30, 2012)

歳以下小児白血病
 の2倍
 遠の1.3倍
 (Kaatsch P 他, Dtsch Arztsbeil Int 105, 2008)

発がん性を示した疫学研究

之る「放射線学」科学者「リス」
 本対等「リスト」
 (暴走?! 核燃料サイクル 240
 (林 隆彦))

「Sustainability」ではない。
 可能工業や「南登」は
 (米・中を中絶)
 リスクに「2」は
 (政策防衛による)